

# 行政視察報告書

平成30年 2月15日

会派名 江南クラブ

会派代表者 福田 三千男

(参加者：福田三千男、宮地友治、古池勝英、伊神克寿、稲山明敏、安部政徳、東猴史紘)  
行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

|      |                |
|------|----------------|
| 年月日  | 平成30年 2月1日(木)  |
| 視察時間 | 午後1時～午後2時30分   |
| 視察先  | 香川県丸亀市         |
| 視察項目 | 丸亀市こども未来計画について |

②

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 年月日  | 平成30年 2月2日(金)              |
| 視察時間 | 午前10時00分～正午                |
| 視察先  | 愛媛県松山市                     |
| 視察項目 | みんなで歩いて暮らせるまちづくり(街路整備)について |

# 行政視察報告書

①

|  |                |
|--|----------------|
| 年月日  | 平成30年2月1日(木)   |
| 視察時間   | 午後1時～午後2時30分   |
| 視察先  | 香川県丸亀市         |
| 視察項目   | 丸亀市こども未来計画について |
| <b>■目的</b><br>江南市が平成30年度の機構改革によりこども未来部を設置し、子育て支援へのきめ細やかなサポートを充実させていくなか、すでにこども未来部を設置し市立保育園・幼稚園を運営している先進市における子育て支援の状況を参考とする。   |                |
| <b>■内容</b><br>丸亀市こども未来計画では丸亀市の今後5年間の基本姿勢として、重点的に取り組む事項を4点掲げている。<br>①待機児童対策<br>未利用保育室の活用を推進し、既存の保育施設の定員拡大へ取り組みを進める<br>②認定子ども園の普及<br>様々な保育ニーズの高まりに応えるため、保護者の多様な選択肢の確保を目指し、保護者の就労状況に関わらず入園できる認定子ども園の導入を推進する。<br>③私立幼稚園・保育所(園)との連携<br>幼稚園が公立7カ所、私立2カ所、認定子ども園が公立4カ所、私立1カ所<br>保育園が公立15カ所、私立10カ所と充実しているため、各園・保育所間の連携を密にし、就学前教育・保育の充実に取り組む<br>④施設整備<br>長期の人口推計で今後、人口減少が見込まれていることから、老朽化した施設や、今後新設される施設を含めて、公立保育園・教育施設の人口推移に合わせた統廃合・再配置、適正規模での増改築など、施設整備に取り組む。<br>また、これらの取り組みも今後中間評価を行うなど、定期的に検証・見直しの機会を設ける。 |                |
| <b>■所感</b><br>丸亀市は子育て政策の目玉として「まる育サポート」を導入した。これは妊娠期をはじめ、子どもが0歳から18歳までの子育て期を「ハッピーサポート丸亀」と「あだあじょ」の2つのシステムで支援していく取り組みである。<br>ハッピーサポート丸亀は、妊娠届出時だけでなく出産後も赤ちゃん訪問や乳児検診のときなど地区担当保健師が継続してサポートしていくものである。<br>市民は子育てに関する悩みは専用のダイヤルに電話すれば子育て支援の専門員が相談に乗ってくれる。たとえば妊娠中の不安やストレスに関すること、他の子供と比べ発達や育ちが気になることなどである。<br>まだ、スタートしたばかりなので月に10数件のお問い合わせしかないが市の広報などでしっかりとPRしていく予定だという。   |                |

# 行政視察報告書

②

|   |                            |
|---|----------------------------|
| 年月日   | 平成30年2月2日(金)               |
| 視察時間  | 午前10時00分～正午                |
| 視察先   | 愛媛県松山市                     |
| 視察項目  | みんなで歩いて暮らせるまちづくり(街路整備)について |
| <b>■目的</b><br>江南市は布袋駅付近の鉄道高架化に合わせ、布袋駅東地区の市街化区域への編入及び複合公共施設の建設により布袋地区におけるにぎわいの創出を目指している。<br>このことから、山間部を除いて、居住可能地域のほぼ全域を都市計画決定し、まちづくりを推進している松山市の都市開発を参考とする。   |                            |
| <b>■内容</b><br>松山市は「歩いて暮らせる街づくり」推進要綱を定め、市の目指すまちづくりにおける基本的な考え方を示している。<br>①生活の諸機能がコンパクトに集合した暮らしやすい街づくり<br>②安全・快適で歩いて楽しいバリアフリーの街づくり<br>③街中に誰もが住める街づくり<br>④住民との協働作業による持続性のある街づくり<br>これらを基本として都市計画マスタープランや立地適正化計画等とも整合性を図り、歩いて暮らせるまちづくりを実現できる市街地整備を推進している。<br>また、歩行者空間整備においては道路景観の高質化を目指し、外壁や看板を地元作成の「デザインガイドライン」に基づきファサード整備している。   |                            |
| <b>■所感</b><br>松山市のまちづくりの方向性は江南市と同様に「コンパクトで質の高い都市、効率的で効果的な都市経営」である。市の中心地に図書館や病院、大学などが集約されており、公共交通も中心地の充実を図っていく方針である。<br>特に歩行者空間の再創出に注力しており、商店街の古めかしいアーケードを撤去してファサード整備を行うことにより洗練された町並みを実現されていた。<br>江南駅の裏側の商店街もアーケードを撤去して、整備を行っていくとよいとは考えるが松山市のように一切の市民からの反対がないという状況ができるか難しいところである。<br>ただし、松山市もあくまで市の中心地は便利であるがそれ以外の地域は公共交通の限界もあり、議会でも一部の議員から公共交通の充実を求められているが財政面で実現は困難であることは江南市と同様である。 |                            |